

平成28年1月

成年後見人等の報酬額のめやす

京都家庭裁判所

1 報酬の性質

家庭裁判所は、後見人及び被後見人の資力その他の事情によって、被後見人の財産の中から、相当な報酬を後見人に与えることができるものとされています（民法862条）。

成年後見監督人、保佐人、保佐監督人、補助人、補助監督人及び任意後見監督人についても、同様です。

成年後見人等に対する報酬は、申立てがされたときに審判で決定されます。報酬額の基準は法律で決まっているわけではありません。裁判官が、対象期間中の後見等の事務内容（財産管理及び身上監護）、成年後見人等が管理する被後見人等の財産の内容等を総合考慮して、裁量により、各事案における適正妥当な金額を算定し、決定しています。

これまでの審判例等、実務の算定実例を踏まえた標準的な報酬額のめやすは次のとおりです。

2 基本報酬

(1) 成年後見人

成年後見人が通常の後見事務を行った場合、その報酬（これを「基本報酬」と呼びます。）のめやすとなる額は、月額2万円です。

ただし、財産管理額（預貯金及び有価証券等の流動資産の合計額）が多額な場合には、財産管理事務が複雑、困難になる場合が多いので、管理財産額が1000万円を超え5000万円以下の場合には基本報酬額を月額3万円～4万円、管理財産額が5000万円を超える場合には月額5万円～6万円がめやすとなります。

なお、継続的な財産管理権が付与された保佐人、補助人も同様です。

(2) 成年後見監督人

成年後見監督人が通常の後見事務を行った場合、その報酬（基本報酬）のめやすとなる額は、財産管理額が5000万円以下の場合には月額1万円～2万円、管理財産額が5000万円を超える場合には、月額2万5000円～3万円となります。

なお、保佐監督人、補助監督人、任意後見監督人も同様です。

3 付加報酬

成年後見人等の後見等事務において、身上監護等に特別困難な事情があった場合や、通常の後見事務の範囲を超えた事務を行った場合には、上記基本報酬額の50パーセントの範囲内で相当額の報酬を付加するものとします。

また、成年後見人等が、報酬付与申立事情説明書に記載されているような特別の行為をした場合には、相当額の報酬を付加することがあります。

4 複数成年後見人等

成年後見人等が複数の場合には、上記2及び3の報酬額を、分掌事務の内容に応じて、適宜の割合で按分します。

以上